

三つの大切



教育長 小沢 貞義

昨年子どもに関わるいじめが大きな社会問題となりました。問題の背景に何があるのか、子どもは大人や社会に何を訴え何を望んでいるのか、私の教育経験から考えてみたいと思います。

(一) 信頼されることの大切さ

小学校のころから万引きや友とのトラブルが絶えない子がいきました。彼が中学三年になった時、私は彼に学級の下駄箱清掃をお願いしました。割り当て人数は彼一人、誰にも頼れず頼ら



れず、自分一人の力が試される仕事です。来る日も来る日も彼は黙々とその仕事に励みました。私は日々彼を支え励まし、見守り続けました。やがて、級友から彼に感謝のことが寄せられるようになりました。そして、誰もが玄関の外で靴の泥を落とし、かかとをそろえて入れるようになりました。こうして自信を得た彼は、いつしか下駄箱や級友に感謝の気持ちを抱くまでになりました。

(二) 愛されることの大切さ

気持ちが荒れ、いじめや問題行動を繰り返す子どもの修学旅

行に付き添ったことがありません。私はその晩、就寝時彼らの部屋に入り、心配な二人の子の手を握り両脇に抱えて寝ました。多感な時期の中学生、夜中の抜け出しを防ぐための覚悟の決断でした。彼らは口では嫌がり、抵抗をしましたが顔つきは穏やかでした。通い合う手の温もりは彼らの心に愛情と安心感を与えたのでしょうか。寝息が聞こえるまでに時間はかかりませんでした。以後、彼らは徐々に心を開き、教師や友の忠告にも耳を傾け、自らの責任を果たし、人間らしい心の優しさを取り戻していきました。

(三) 認められることの大切さ

暴言、暴力、規則違反などの目立つ子がいました。中学校一年生の秋、彼は遠足時の指揮係長になりました。当日、彼は私の後ろに付き、

金を得て生活しています。次は大人から親へと、いつか成長するでしょう。

(安井翔一)

下諏訪中学校



大人になったからと言って、気取らず、ありのままの自分です。今、これからを一生懸命生きていくことが、必ず世のため、人のためになっていると思います。あ、選挙にはぜひ行ってください。

(林一穂)

先生方のことば

大人になること、それは「自分で生きる」ことだと思ふ。子どものときに怖かった父親。でも、今では対等に話をしていけるのかなと感じた。

(小田切 仁志)

二十歳を迎えた頃、私は学生という言葉に甘えていました。働き始め、今まで以上に行動に責任をもって行動するようにな

(宮崎 繁)

働き始めて、一人の大人として、そして教師として、私を見る多くの人がいる。今まで以上に責任ある行動を心がけるようになった。自分に厳しい人でありたい。こんな気持ちの変化。大人になるということ。

(濱理恵子)

成人して数年、「大人」とは、何をするにも自分でやりがいを見つけられる人だと感じています。どんな困難も自分の成長のためにあるべきこと。そう思えば、本当に素敵な大人になれると思います。

(小川泉)

のび太「大人って、かわいそうだね。」「ドラえもん「どうして?」のび太「よりかかって甘えたり、叱ったりしてくる人がいないんだもの。」「……。自分の中に、よりかかって甘えられる自分、叱ってくれる自分を作れるのが大人かな……。

(宮崎 繁)

新年を迎えて

下諏訪中学校



十九歳から二十歳へ。誕生日を境に、そのほんの一瞬を境に「成人」と呼ばれるようになる。

昨日の自分と今日の自分、一体何が違うと言うのだ?成人式という儀式も大きなイベントであり、一つの大きな節目でもある。しかし、最も大切なのは、成人としての自覚ではなからうか。成人とは単なる年齢の区切りではなく、精神的に大人になる大きなステップなのではなからうか。でも、人生なんて幾つになっても勉強なんだよね。

(小林 幸良)

自分が成人して五年。もう言い逃れできない年齢かもしれない。

よく考えたら、教室に大人って私しかないんだ。中学生の純真だけと不安定、かつ大人を責めようという目を見ていると、私もそういう目を忘れちゃいけないと思わせる。生徒に対して「ああしろ、こうしろ」になっ

「人に成る」と書いて、成人と言います。では人に成るとは、具体的に何を指すのでしょうか。私は、自分の力で生活する能力を持つことではないかと思っ

(増山 容)

二十歳を迎えた頃、私は学生という言葉に甘えていました。働き始め、今まで以上に行動に責任をもって行動するようにな

(宮崎 繁)